

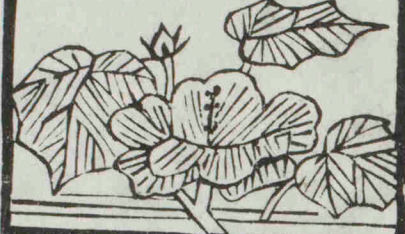
解剖訓蒙

營養器論

九



慶應義塾大學  
醫學部  
圖書文化庫

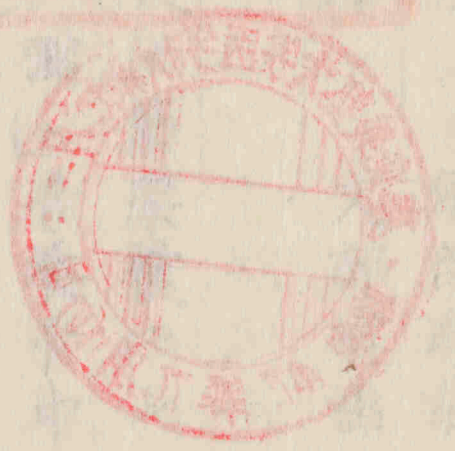


195

*S. Kumaki*  
*[Handwritten scribbles]*



✕  
k 10-2



Red text below the circular seal.

Vertical text on the right side of the page.

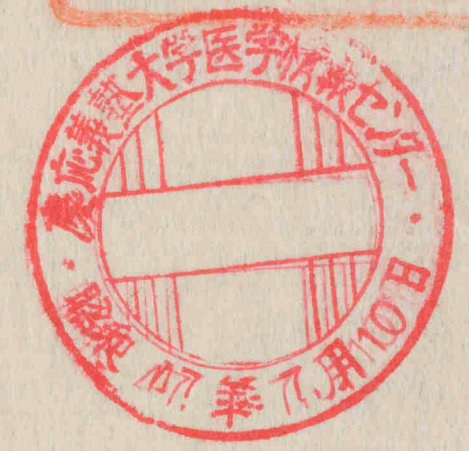
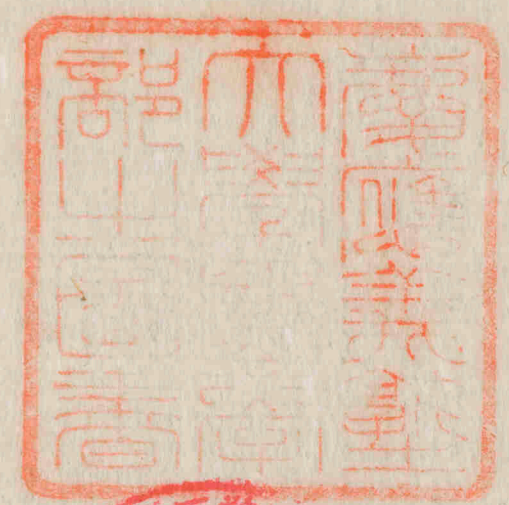
Faint vertical text on the left side of the page.



491.1  
Ka-3  
9

No. 2395

112 K10-2



富士川文庫

2455



解剖訓蒙卷之九

米利堅

日本

解剖學教頭約瑟列第著

文部省出仕村治重厚譯

胃

胃マゼ、マック巨大筋膜囊ニシテ、腹内ニ藏居シ、

胃管ヨリ小腸ニ彌ル營養管中ノ最廣部ニシテ、

壁ヨリ液ヲ釀製シ、以テ其貯蓄セシ食物ヲ化學

的ニ變化セシム其形式ハ圓錐狀ニシテ上方ニ

彎曲シ、左方ヨリ、右方ニ斜渉シ其位置、左肋下部

ニ占據シ、天上腹部ヲ超テ、右肋下部ノ一部ニ及

甲  
ストマコス

胃

解剖訓蒙

九

上方ニ横膈、肝、下方ニ横行結腸、右方ニモ肝、左方ニ脾、前方ニ腹壁、後方ニ膈アリテ關係セリ。通常胃ヲ論スルニ、大小端、大小灣、前後面、上下口ノ諸部ニ區別ス。

甲 カルデア

大端セ、グトリメイト、エキハ、左ニ在リ、甲上口セ、クカルデア

乙 ピロロス

在リ、乙下口セ、ピトリメイト、ヨ以テ、小腸ニ通ス。

丙 カルデサツク

大端ハ、胃管ノ數「イン」チ左ニ挺出ス、之ヲ丙盲囊セ、クト云フ小端又々幽門端セ、ピトリメイト、エキハ、

丁 パールスピロリカ

其末部ニ於テ、略ホ二「イン」チ間、稍ヤ縮小セリ、之

甲 アントロムピロリ

フ幽門洞セ、ピトリメイト云ス、

乙 カルデアトリス

小灣セ、レカルデアトリスハ、上後方ニ向キ、小網爰ニ附着

丙 カルデアトリス

大灣セ、レカルデアトリスハ、前下方ニ向キ、大網ノ前

層爰ニ附着ス

前面セ、アンテリハ、前上方ニ向ク、後面セ、ポステ

スハ、下後方ニ向テ、横膈、脾、十二指腸、左腎ニ觸接

ス。容量ハ、膨脹ノ度ニ由テ、差等アレ、通常一乃

至二「ク」トルツヲ納ル可シ、丈ケハ、九乃至十二「イ

ン」チ、幅ハ、最廣ノ處ニテ、四乃至五「イン」チアリ

壁ハ、四層ヨリ構成シ、皆十結締組織ニテ、互ニ相

夕ニカセローサ

擦着ス即チ清膜層、筋層、纖維層、粘膜層是ナリ  
清膜層<sup>セ、シ</sup>トハ、最外ニ在テ、腹膜ヨリ來レリ  
菲薄透明ニシテ、胃ヲ親密ニ被包ス但シ大小ノ  
兩灣ニテハ、細狹ノ間隙ヲ貽シ以テ血管、水脉、神  
經ノ諸幹ヲ居ラシム  
筋層<sup>セ、マ</sup>トハ、淡紅ナル無紋纖維ノ三層ヨリ  
構成シ其層各方向ヲ異ニス外層<sup>セ、エ</sup>キスヲハ、  
縱纖維ニシテ、胃管ノ縱纖維ト聯續シ來リ、放線  
狀ヲ為シテ布達ス、而テ其線兩灣特ニ小灣ニ沿  
テ、最モ多ク、前後ノ面ニテハ、唯々薄布スルノミ

夕ニカセローサ

夕ニカセローサ

中層<sup>セ、ミ</sup>トハ、環纖維ニシテ、前者ヨリモ多ク  
一様ノ容ニテ、須要ノ者トス、而テ其始メ、盲囊ノ  
部ニテハ薄ク、幽門端ニ近クニ隨テ、逐次ニ集積  
シ、終ニ下口ニ至テ、厚キ小筋束ト為レリ、之ヲ幽  
門括約筋<sup>セ、ピ</sup>ト云フ内層<sup>セ、イ</sup>トハ、  
斜纖維ニシテ、胃管ノ環狀纖維ト聯續ス、而テ  
先ツ左方ニテ、一ノ廣帯ヲ造成シ、上口ヲ圍擁シ  
テ、右下方ニ斜行シ、前後ノ面ニ布達ス、  
纖維層<sup>セ、ク</sup>トハ、厚キ粘膜下組織ニシテ、擴  
張ス可キ一層ナリ、胃ノ強剛ナル所以ハ、特ニ是

夕ニカセローサ

解り可

卷之九

三

ニ憑依ス

胃タニミシゴサ

粘膜層<sup>甲</sup> ス、ゼ、ミウトコ 即チ裏面ノ膜ハ、柔軟<sup>ホ</sup>ル<sup>プ</sup>ノ  
 如クニシテ、淡赤灰色ナリ興奮、乃チ消化ノ時人  
 如キニ於テハ、赤色ヲ増ス、又々炎症ニ罹  
 紅色ニ變ス亦々盲囊ニテハ薄キモ、幽門端ニ近  
 シニ隨ヒ、増厚シテ、「ライン」ノ四分三ヨリ、一テ  
 イニ一ニ至ル通常、幽門端ニ於テ、無數ノ振轉セル  
 網狀ノ起線、即チ皺<sup>ヒ</sup>ル<sup>リ</sup>ス、クヲ呈セリ、其大ナル者  
 ハ、皆十縱行ニテ、盲囊ニ向ヒ、漸次ニ喪ハル此皺  
 ハ、胃ノ収縮ニ由テ、其數ト大サヲ増加シ、開展ニ

胃一ギ

胃タニミシゴサ

由テ、減少シ、若クハ、全ク喪ハスルニ至ル  
 下口ニ於テ、厚キ環狀ノ皺襞アリ、或ハ時トシテ  
 一對ノ半月狀皺襞ヲ具ヘ、辨ノ作用ヲ為ス、故ニ  
 幽門辨<sup>甲</sup> ス、ゼ、ヒロウト云フ此皺襞ニ、厚キ小筋束ヲ  
 含有ス、是レ所謂幽門括約筋ヲ造成スル者ナリ  
 粘膜ノ遊離面ハ、幽微ノ小乳房狀ヲ呈シ、悉ク腺  
 口ニテ、微細ニ穿孔ス而テ圓柱狀内皮ヲ具ス、此  
 皮ハ、上ニ上口ヨリ始リ、下モ營養管ノ諸部ニ全  
 涉ス、

胃タニミシゴサ

胃腺<sup>乙</sup> ク、ダ、ガ、ラ、ス、ト、リハ、管狀ニシテ、粘膜ノ厚積中ニ

縦テニ密布ス一般ハ單一ニテ殆ト直立シ或ハ  
稍ヤ迂行シ其丈ケ上口ヨリ下口ニ至ルニ隨ヒ  
漸次ニ増加ス是レ胃粘膜上ヨリ下モニ増厚ス  
ル所以ナリ或ハ上下兩口ノ近傍ニ複合スル者  
アリ一箇ノ宗管ヨリ構成シテ其根蒂ハ二乃至  
四箇ニ分離セリ  
件ノ腺ハ其裏面悉ク圓柱狀内皮ニテ被覆ス此  
皮ハ粘膜ノ者ト異ナラス然レ氏多分ハ其深部  
ニ稍ヤ大ナル圓形或ハ多角形ノセルヲ具フ此  
セル腺口ニ向フテ漸次ニ圓柱狀内皮セルニ化

成ス

胃ハ管狀腺ノ他幽門端ニ於テ數箇ノ微細ナル  
葡萄狀腺ヲ具有ス又々間腸ノ撒布腺ニ類似セ  
シ數箇ノ白キ小圓物ヲ見ルアリ

胃ハ甚々血管ニ富メリ其血管ハ胃ニ附着スル  
網膜ノ線路ニ沿テ來達ス血管中胃腸網動脈ハ  
二幹相待テ大灣ニ沿ヒ第一ノ弓線ヲ造成シ冠  
動脈ト幽門動脈ハ小灣ニ沿フテ第二ノ弓線ヲ  
造成シ短胃動脈ハ盲囊ニ達ス以上血管ヨリ悉  
ク胃ノ面ニ分支シテ膜層間ニ入り血管網ヲ形

成シ此網ヨリ更ニ清膜筋粘膜三層ノ毛細管網ヲ起セリ靜脈ハ動脈ト一樣ニテ且ツ同行ス水脈モ數多ニシテ其幹亦々兩灣ニ沿フテ經過ス神經ハ肺胃神經ノ末梢部ト交感神經ノ大陽叢ヨリ來レリ

甲 ムゴスガストリユス

胃腺ヨリ醸製スル液ヲ胃液胃液ト云フ

セ、ガストリ、ク、ジ、ウ、ス

此液ハ異物ヲ混セサレハ清澄無色ニシテ恒ニ酸味ヲ具ヘ且ツ粘液ヲ和スルヲ以テ稍ヤ粘滑

ナリ其成分ハ水ニ一種ノ蛋白樣質即チ胃液素

ト遊離ノ塩化水素酸、乳酸ト數種ノ塩化物

乙 ガステラーセ、  
合 ケモーション

磷酸塩トヲ溶和セリ其効用ハ特ニ蛋白樣質即チ肉乾酪卵植物膠質ノ如キ者ヲ溶解ス

小腸

小腸小腸ハ臍廓部ト其周圍部ト隣接

甲 インテステイムテ  
乙

縁ニ占據ス圓柱状ノ迂曲廻疊スル一管ニシテ

腸間膜ニ由テ脊椎柱ヨリ提繫シ其丈々ハ略ホ

二十五フト幅ハ一インチ乃至一ト四分ノ三

トナリ下行スルニ隨フテ稍ヤ狭小ト為リ終ニ

大腸ニ連接ス小腸ヲ區別シテ十二指腸空腸廻

腸ノ三部トス其經界ハ判然ナラスト雖モ其部

甲  
乙  
丙  
丁  
戊  
己  
庚  
辛  
壬  
癸  
子  
丑  
寅  
卯  
辰  
巳  
午  
未  
申  
酉  
戌  
亥

各特異ノ性ナキニ非ス  
十二指腸セ、シヨムハ、小腸中ノ最廣部ニシテ、其丈  
ケ略ホ十二指横徑ナリ、胃ノ下口ヨリ始マリ、右  
後方ニ上行シテ、胆嚢ノ頸ニ達シ、頓ニ下行シテ、  
右腎ノ前ヲ經過シ、次ニ第二ノ腰椎ニ對シテ、左  
側ニ轉シ、空腸ニ終レリ  
上行部ハ、前上方ニ肝ト胆嚢アリ、通常、死後ニハ、  
胆嚢ヨリ滲出セシ、胆汁ニテ滲着ス、下行部ハ、左  
方ニ臍頭附着シ、下部ノ内ニ、臍ノ排泄管ト、総胆  
管ト相合シテ、開口セリ、横行部ハ、横行結腸網膜

子  
ス  
テ  
ス  
イ  
リ  
オ  
ン

ノ後ニ在リ、蜂巢組織ニ由テ、横膈脚ト、脊椎柱前  
ニ存スル血管トニ附着ス、其上縁ニ沿フテ臍ア  
リ、而テ上腸間膜血管ハ、臍ノ下方ヨリ、此部ノ終  
末ヲ横過ス  
空腸セ、シヨム及ヒ廻腸セ、イリムハ、小腸中ノ一部ニ  
シテ、前腸ヨリ、大腸ニ至ルノ間ナリ、其兩個ノ分  
界ハ、着明ナラサレ、甲ハ其五ノ二分、乙ハ三分  
ナリ、  
空腸ハ廻腸ヨリモ濶ク、且ツ捏捻スルニ、稍ヤ厚  
キヲ覺フ、是レ其粘膜ノ皺襞、許多ナルニ坐セリ、

解  
明  
之  
理  
二

加之、攢簇腺十キヲ以テ、亦々其一徵トス。廻腸ハ、右腸骨部ニ終リ、大腸ト聯合スルヲ、殆ト直角ナリ。小腸ノ壁モ、亦々胃ノ如ク、四層ノ膜ニテ構成ス。即チ清膜層、筋層、纖維層、粘膜層是ナリ。外層、即清膜層ハ、腹膜ヨリ轉來シテ密包シ唯々其腸間膜附着ノ部ニ沿フテ、狹隙ヲ存シ以テ血管神經ノ通路ト為スノミ然リ而テ、十二指腸ハ、兩端、腹膜ニテ被包シ、下行及ヒ横行部ノ多分清膜ニテ被包セラレス。

シヨコグニテス

筋層ハ、二層ノ淡紅ナル無紋纖維ヨリ構造シ其外層ハ、薄布セシ經纖維ヨリ成リ、内層ハ、比スレハ厚ク、且ツ著明ナル緯纖維ヨリ成ル。纖維層ハ、胃ノ者ヨリ薄シ、然レモ強ク且ツ擴張ス可シ。

粘膜層即チ裏面ノ膜ハ、胃ノ者ニ比スレハ、菲薄ニシテ赤色ナリ、亦々圓柱状内皮ヲ具シ而テ無數ノ半月状ノ横皺襞ヲ造呈ス、之ヲ甲半月小襞乙ト云フ。此皺襞、小腸ノ上部ニテハ、最モ多ク且ツ廣クシテ、彼此ノ縁互ニ襲蔽スルニ

至<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>下部ニ届ルニ隨テ數幅俱ニ漸次ニ減  
 少シ、終ニ廻腸ニ至テハ愈々分明ナラス、以テ喪<sub>レ</sub>  
 セリ、此皺襞ハ恒存ノ者ニシテ、腸壁ノ収縮ヨリ  
 成ルニ非ス、其作用ハ、吸收、分泌、面積ヲ増廣シ  
 且ツ食物ノ通過ヲ、緩徐ニセシム

小腸ノ粘膜ハ、其半月小瓣モ共ニ、滿面悉ク微細  
 ノ隆起ヲ具ヘリ、之ヲ腸<sup>甲</sup>瓣<sub>リ</sub>ト云フ、是故ニ其裏  
 面ハ、剪絨状ヲ呈ス、試ニ一部ヲ截取シ、粘液ヲ清  
 刷シテ、之ヲ水底ニ置ケハ、其狀瞭然ト看取ス可  
 シ、此瓣ハ、小腸ノ上部ニ於テ、微細ノ蛇行状皺襞

甲  
 フロキユリ

ヲ為シ、通涉ノ際、間斷シ、又々屢々網眼状ヲ為シ  
 テ聯續ス、下方ニ届ルニ隨ヒ、其間斷甚々頻數ニ  
 シテ、廻腸ニ至レハ、其瓣終ニ扁平、圓錐状若クハ  
 舌樣ノ隆起ト為レリ  
 腸瓣ハ、其嵩サ、一<sub>ラ</sub>イン<sub>ン</sub>ノ四分之一、乃至三分一ア  
 リ、構造ハ、粘膜ノ隆起スル者ニ他ナラス、圓柱状  
 内皮ヲ具ヘ、又々自形ト同一ノ毛細管網ヲ含有  
 ス、其他、水脈ノ始端ヲ含有ス、之ヲ乳糜脈ト云フ、  
 然レモ、其脈ノ由テ起ル法方ハ、未々詳明ナラス  
 一説ニハ、腸瓣毎ニ一二ノ盲枝ヲ以テ始ムトシ、

又夕一説ニハ網状叢ヲ以テ始ムトス其効用ハ食物ノ滋養分ヲ吸収スル為メニ最大緊要ノ者ナリ

小腸ノ粘膜炎中ニ四種ノ腺アリ十二指腸腺管状腺散布腺攢簇腺是ナリ

甲 クランジュニスブロン子リ

十二指腸腺ルゼ、グランデヌ又夕ブランノル腺ハ細

小ノ葡萄状腺ニシテ粘膜炎下組織ニ占據シ十二

指腸内ニ開口ス十二指腸ノ始端ニテハ其數最

モ多ク殆ト相聯續セル一層ヲ造成ス然レモ後

千漸次ニ減少シ且ツ細小ト為リ腸ノ終端ノ近

傍ニ於テ全ク喪ヒス

乙 グランジュリール  
ペルクタニアニ

管状腺グゼ、チロ、グハ最モ數多ナル單一ノ直腺

ニシテ小腸中存セサル處ナシ粘膜炎厚積中ニ

縦テニ位シテ腸辦ノ間隙ニ開口シ以テ篩状ヲ

呈セリ而テ圓柱状内皮ヲ具ヘ清澄ノ液ヲ分泌

丙 ニソクスインテリクス

ス之ヲ腸液ナセ、イジント云フ

丁 グランジュリール  
リターリ

撒布腺セ、グハ微細ナル橢圓若クハ圓形

ノ白物ニシテ都テ單ニ撒布シ亦夕小腸中存セ

サル處ナキ粘膜炎下組織中ニ埋居スル密閉胞ナ

リ其構造ハ纖維囊ニテ外覆シ圓形ノ有核セル

二、ラ、エ、リ、ト、ナ、リ

遊離核顆粒物ヲ含蓄シ、微細ノ血管、其内部ニ透過セリ、其効用ハ、未タ詳ナラス

攢簇腺

テ、エ、グ、ミ、子、又、タ、ベ、イ、エ、ル、腺、ハ、前、種、ニ

同キ、胞状物ノ相集ル、楕圓形ノ斑ニシテ、十五乃至三十箇存シ、其丈ケ、半「インチ」乃至二「インチ」幅ハ、略ホ半「インチ」アリ、通常、廻腸ニ占據シテ、恒ニ腸間膜附着ノ部ニ相對向シ、腸ノ縱經ト并行ス、班ノ大ナル者ハ、多分ハ、廻腸ノ下部ニ在リ、而テ上行スルニ隨ヒ、互ニ遠離シテ、細小且ツ環状ト為ル、若シ空腸ニ存スルモ、小且ツ少ナリ

此腺ハ、腸ノ裏面ニテハ、粘膜面下ニ凹陷スレモ、表面ニテハ、稍ヤ隆起セリ、半月小辨ノ此腺ニ近邇スルヤ、通常、間斷スレモ、或ハ、之ヲ起ヘテ過ルモ、大サヲ減シ、多ク振轉ス、効用ハ、未タ詳ナラス、唯タ「タ」井「ホ」イ「ド」熱ノ如キ、疾疾ニ於テ、著シク變化アルハ、目撃スル所ナリ

小腸ノ動脈ハ、數多アリテ、膝十二指腸、幽門、上腸間膜ノ諸動脈ヨリ來レリ、腸間膜ヨリ、腸ニ分布シテ、其膜層間ニ血管網ヲ造成シ、粘膜、筋、清膜三層ノ毛細管網此ヨリ出シ、靜脈ハ、動脈ト伴行セ

水脈ハ、數多ニシテ、其源、三箇ナリ、即チ彼ノ諸  
動脈ヲ受ケシ處ヨリ轉來ス、神經ハ、交感系ノ大  
陽叢ヨリ來レリ

大腸

甲  
インテステールノム、  
イラシム、

大腸甲 デ、セラ、イ、インハ、圓柱状ノ管ニシテ、其巨大  
ナルト、囊状ナルトヲ以テ、全ク小腸ト區別スヘ  
シ、其丈ケ、略ホ五「フ」トアリテ、小腸ヨリ肛門ニ  
至ルノ際、殆ト腹肚ヲ廻繞シ、結腸網膜ニテ維持  
ス、其位置、右腸骨窩ニ始リ、右腎ノ前ヲ上行シテ、  
肝ノ下部ニ至リ、次ニ臍廓部ノ上邊ニ横過シテ、

左肋下部ニ至リ、次ニ左腎ノ前ヲ下行シテ、左ノ

腸骨部ニ至リ、爰ニS字状ニ廻轉シテ、後チ尻骨

盤内ニ降り、薦骨ノ前ヲ下行シテ、肛門ニ終ル之

ヲ區別シテ、三部トス、即チ盲腸、結腸、直腸是ナリ

盲腸コ、ゼ、ム、シ又タ、結腸頭コ、ゼ、ム、シハ、大腸ノ

最廣部ニシテ、巨囊ヨリ造為シ、右腸骨部ニ占據

シテ、廻腸終末部ノ下ニ在リ、其位置ヲ維持スル

ニ、腹膜皺襞ノ前部ヲ翻轉スル者ト、寛祐ナル結

締組織ノ腸骨窩ニ附着スル者トヲ以テス、然レ

モ時トシテ、後部ニ腹膜ノ皺襞アリテ、維持ノ度

アヘンデキユエ  
フラーミム

ヲ尋常ヨリモ更ニ寛祐ナラシム其丈幅俱ニ略  
ホニ「インチ半ニシテ根蒂ニテハ内後方ニ彎曲  
シ、頤ニ縮狹シテ、蟲狀ノ延展部ト為ル之ヲ虫様

垂セ、ザルミト云ヘリ  
虫様垂ハ、丈ケ四五「インチ太サ驚翅管許ニシテ、

通常、稍ヤ螺旋シ、腹膜皺襞ニ由テ、其旋際ヲ保定

ス内經ハ狭ク、壁ハ比スレハ厚ク、構造ハ他ノ諸

部ニ異ナラズ下等簇ニハ、盲腸甚タ延展スル者

アリ、畢竟、虫様垂ハ、其萌芽ト謂フ可シ

結腸セ、コーハ、大腸ノ第二部ニシテ、最モ長ク、盲

コロム

角音訓蒙

三

腸ヨリ、直腸ニ達ス其通過ノ部ニ随フテ、之ヲ上

行横行下行S字状屈曲ト云フ其幅徑ハ、始端ニ

テハ、最モ濶ク、略ホニ「インチ半アリ、而テ漸次ニ

狭小シ、終端ニテハ、一「インチニ過キス三列ノ囊

ヲ具ヘテ、三條ノ縦帶ト相ニ隔居ス、但シ此帶ハ、

同一距離ニ存シテ、虫様垂ノ根蒂ヨリ出ツ囊間

ノ縮小部ヲ、腸ノ内方ヨリ着レハ、其壁、宛モ半月

状皺壁ヲ成セリ

上行結腸セ、コーハ、腹ノ右側ニ占據シ、寛

祐ナル、結締組織ニ由リ腹壁ノ后部ニ附着シ、且

コロムアセデス

解明川

卷之九

三

甲  
コロロンダラシス  
ウエルソム

ソ兩側及ヒ前方ニ、腹膜經過シ、以テ維持ス。后方  
ハ、方腰筋及ヒ腎前方ハ、小腸ト相關係ス。  
横行結腸レ、ヒ、コ、ラ、ン、ス、コ、ロ、ン、ダ、ハ、臍廓部ノ上邊ニ於テ、  
斜ニ腹肚ヲ横過ス。乃チ兩端ハ、兩肋下ノ后部ニ  
密着ス。レ、ヒ、中部ハ、弓狀ヲ為シテ前進シ、横行結  
腸網膜ニテ寬提ス。上ニ肝胃、下ニ小腸アリ、而テ  
大綱ノ右層ハ、其外縁ヨリ下行ス。  
下行結腸レ、ヒ、コ、ロ、ン、ダ、ハ、腹ノ左側ニ占據シ、結  
締組織ト、兩側及ヒ前方ニ經過ス。ル腹膜トニ由  
テ腹壁、后部ニ密着ス。上部ハ、脾ト親接シ、其後

乙  
コロロンダラシス

甲  
フレキシビラ、シグ  
モイ、デア

乙  
フレキシビラ、シグ  
モイ、デア

方ニ、左腎及ヒ方腰筋前方ニ、小腸アリ。  
結腸 S 字狀屈曲レ、ヒ、コ、ラ、ン、ス、コ、ロ、ン、ダ、ハ、S 字狀ニ振轉  
ス。ル部ニシテ、腹膜ノ廣襞ニ由テ、左腸骨窩ニ付  
着ス。是レ結腸ノ最狹部ニシテ、囊狀ヲ為ス。モ、亦  
々淺小ナリ、而テ左薦腸縫合ニ對シテ直腸ニ終  
レリ。  
廻結辯レ、ヒ、コ、ラ、ン、ス、コ、ロ、ン、ダ、ハ、結腸ノ左側内ニ向開セ  
テ、其廻腸ノ口ニ存ス。ル、一對ノ半月狀皺襞ナリ、而  
テ、其廻腸ノ口ハ、宛モ盲腸ノ上ニ在リ。此兩辯ハ、  
彼ノ口縁ニ横居シテ、結腸内ニ突出シ、乃チ遊離

縁ヲ相近通シ其縁ハ各四陷シテ、兩端共ニ狹集  
 セシ皺襞ト為メ、以テ結腸ノ内面ニ少ク進延セ  
 シ兩辨ノ間隙ハ楕圓ナル孔ヲ存ス、然レモ閉鎖  
 スルモハ、遊離縁互ニ觸接シ、以テ物塊ヲシテ、大  
 腸ヨリ、小腸内ニ逆行セサラシム

清膜層ハ、腹膜ヨリ來リ盲腸ト、結腸ノ上下兩行  
 部トノ後部ヲ除ク、他ハ悉ク密包シ其包進ハ  
 行路ニ於テ、不整ナル囊狀物一列ニ懸垂シ、脂肪

アヘンデキユリヒ  
 フロロイン

ヲ含蓄ス、之ヲ副網膜アゼ、エビデロイスクト云フ

筋層ハ、亦々二層ノ淡紅ナル無紋纖維ヨリ構成

外層ノ經纖維ハ、蟲様垂ニ於テハ、一様ノ一層  
 ヲ形成スレモ、后チ相聚合シテ、更ニ三條ノ帶ト  
 為リ、各帶ノ距離同一度ニシテ、盲腸及ヒ結腸ノ  
 全徑ニ沿涉セリ、此帶ハ、其腸身ニ比スルニ極メ  
 テ短短ナリ、故ニ腸ヲシテ、其囊狀ヲ保タシムル  
 ノ用ヲ為シ、而テ内層ノ筋纖維ハ、環狀ニシテ、盲  
 腸ニ於テモ、聯續ノ一層ヲ造為シ、其囊間ノ縮小  
 部及ヒ廻結辨ノ皺襞中ニモ沉入ス、  
 纖維層ハ、小腸ノ者ニ異ナラズ  
 粘膜ハ、柔軟滑澤ニシテ、淡赤灰色ナリ、而テ腸辨

ヲ具ヘス、又囊間ノ縮小部ニ造為スル皺襞ノ他  
ハ更ニ一ノ皺襞ヲ有セス其遊離面ハ悉ク微細  
ノ穿孔即チ篩狀ヲ呈シテ彼此ニ白斑ノ小點ア  
リ而テ柱狀内皮ト管狀腺グセラニングラ撒布腺セ  
カヲリタリトヲ具有ス其管狀ノ者ハ粘膜ノ厚積  
中ニ密併羅列シテ遊離面ニ穿孔狀ヲ呈シ撒布  
ノ者ハ即チ撒布白點ヲ以テ微知ス可シトス此  
腺ハ其造構總テ小腸ノ者ニ異ナラス  
盲腸及ヒ結腸ノ血管ハ腸間膜動脈及ヒ靜脈ノ  
分支ナリ水脈ハ血管ノ行路中ニ存セル腺ニ通

インテステナム  
ト

ハ神經ハ、交感系ノ腸間膜叢ヨリ來レリ  
大腸ノ第三部即チ直腸ハ其性多ク特異ナルヲ  
以テ別章ニ舉ケサルヲ得ス

直腸トセ、レクハ大腸ノ終末部ニシテ左薦腸縫合

ニ對シテ結腸ノS字狀屈曲部ノ下ヨリ始リ薦

骨及ヒ尾底骨ノ中線ニ沿ヒ乃チ其兩骨ノ彎曲

ニ隨テ下行シ尾底骨ノ尖點ヨリ后下方ニ向轉

シテ肛門ニ終ル内面ニ半月狀皺襞ヲ具フルヲ

以テ通常ハ三個ノ縮小部ヲ造レ氏結腸ノ如ク

囊狀ヲ為サズ丈ハ六乃至八「インチ」アリ擴張ス  
 ル氏ハ恰モ研棒形ノ如ク上方ハ狭小シ下方ハ  
 其縮小ニテ肛門ト為ル前ニ於テ開展ス前方ニ  
 男子ハ膀胱、精囊、攝護腺アリ、婦人ハ子宮腔アリ  
 肛門<sup>甲</sup>ニセ、スハ、擴張スヘキ一孔ニシテ、尾底骨端ノ  
 略ホ一「インチ」下ニ在リ括約筋ニテ周匝シ下方  
 ハ薄キ闇色ノ皮膚ニテ被ヒ其皮膚漸次ニ昇テ  
 直腸ノ粘膜ニ化成ヒリ此皮膚ハ休息ノ時ハ皺  
 襞ヲ呈スレバ、泄尿作用ノ際ハ、翻展シテ、肛端ノ  
 粘膜モ露出スルニ至ル

中一ボ一デキス

直腸ノ上部ハ腹膜ニテ被包ス、此膜ノ皺襞、即チ  
 所謂直腸網膜<sup>乙</sup>ヲ以テ、薦骨ニ附着セリ  
 此腹膜ハ直腸ノ前及ヒ側部ヲ被覆シテ、下方ニ  
 延布シ終ニ唯夕前部ニ沿フノミニテ更ニ翻轉  
 シ乃チ男子ハ膀胱、婦人ハ膾子宮ニ達ス下部ハ  
 腹膜ニテ被覆セズ、許多ノ脂肪組織ヲ混在スル  
 蜂窩組織ニテ隣接部ニ附着セリ  
 腹膜ノ被覆ナキ部ハ前方ニ於テ、男子ハ膀胱底  
 精囊、攝護腺ト觸接シ、婦人ハ膾ト觸接ス  
 筋層ハ他腸ノ者ニ比スレバ、甚夕厚シ外層ハ亦

アスキニロス、スフィンクテ  
アインテリス、

タ經纖維ニシテ、結腸ノ縱帶ヨリ來リ、而テ著キ  
聯續ノ一層ヲ造成ス内層ハ環狀纖維ヲシテ亦  
同ク聯續ノ一層ヲ造成シ、下行スルニ隨テ、漸次  
ニ増厚シ、終ニ滯積シテ、厚キ小筋束ト為ル之ヲ  
肛門内括約筋クゼイ、オン、テ、マル、ス、フ、イン、ト云フ  
經筋纖維ハ、内括約筋ノ下縁ヲ擁シテ、其筋ト粘  
膜トノ間ニ、少ラク上行スル僅カナル者ノ他ハ、  
悉ク兩括約筋ノ間ニ終ル茲ニ又タ肛門舉筋モ  
歸着シテ、直腸ノ下部ヲ、各側ヨリ圍擁セリ  
纖維層ハ亦タ他ノ者ヨリモ厚ク、且ツ強剛ニシ

ニコムニイ、カルニ  
モルカニ

シニス、モルカニ

テ擴張不可シ  
粘膜ハ其構造結腸ノ者ニ異ナラス然レモ尿管  
ヲ富有シ、且ツ下端ニテハ其色鮮紅ナリ而テ不  
整ハ皺ヲ多有シ、其皺翻展時ニハ喪凶ス、肛門ニ  
近キ處ニ、會湊セル縦襞ヲ造為ス、之ヲ直腸柱コセ  
ロムス、オヴ、ト云、此襞屢下方ニテ相聯續シ、其間  
隙ニ、小室ヲ形成スルヲアリ、之ヲ肛囊コセ、パ、ウ、ナ  
アニト云フ  
通常直腸ノ外部ニ在ル三個ノ縮小部ト、同位置  
ニ於テ、粘膜モ亦タ三個ノ濶キ半月狀皺襞ヲ具

へ以テ辨ノ作用ヲ為セリ  
動脈ハ、下腸間膜、内腸骨、及ヒ内精動脈ノ痔脈支  
ナリ、靜脈ハ、數多ニシテ、下部ニ於テハ錯雜セシ  
網狀ヲ造成ス之ヲ痔脈叢此ハ、ヒモキニイダト云フ、  
是レ血液ヲシテ、下腸間膜、内腸骨ノ兩靜脈ニ還  
流セシムル者ナリ、此脈叢、肛縁ニ在ル者膨大ス  
レハ、乃チ痔血ヲ發ス、水脈ハ、薦骨腺及ヒ腰腺ニ  
進行シ、神經モ亦多ニシテ、交感系ノ下腹叢  
及ヒ近傍ノ脊髓神經ヨリ來レリ  
肛門諸筋ハ、會陰ニ関與スルコト多シ、故ニ細解ハ、

姑ク其條下ニ讓ル

脾

パンクラテヨム

脾リゼ、パンハ、長平ノ腺ニシテ、第一ノ腰椎ニ對

シテ、胃ノ后方ニ占居ス、乃チ右肋下部ニ於テ、十

二指腸ノ下行部ヨリ始リ、横行部ニ沿テ、上腹部

ヲ過キ、左肋下部ニ至リテ、脾ニ達シ、而テ全徑、十

二指腸ニ密接シ、后方ハ、結締組織ニ由テ、横膈脚

大動脈、下大靜脈、上腸間膜血管ニ後着セリ、上腸

間膜血管ハ、此腺ノ溝中、時トシテ其全管中ニ占

居ス、前ハ、横行結腸網膜ノ上行層ニ联接シ、上縁

角高、奇蒙、  
卷之九、  
脾

甲カ、フト、パンクリテス

乙カウタ

ニハ、溝ヲ具ヘテ、脾血管ヲ居ラシム  
脾ハ、帯赤白色ニシテ、甚々唾腺ニ類ス、然レモ比  
スレハ稍ヤ柔軟ニシテ、組織ニ亦タ寛鬆ナリ、其  
丈ケ、六乃至八「インチ」アリ、右端ヲ「頭」  
左端ヲ「尾」ト云フ、而テ頭ハ最モ大ニシテ、漸  
次ニ尾ニ至ルニ隨テ狭小ス、中等ノ者ニ於テ、其  
深サ、略ホ一「インチ」半、厚サ、半「インチ」重量ハ、二乃  
至三「オンス」アリ、件ノ頭ハ、十二指腸ノ下行部ノ  
内側ニ密着シ、而テ其一部、屢離居スルアリ、然  
ルモハ之ヲ「小脾」  
クリアス、ト云フ

甲パンクリテス、ミリス

乙ドクトス、パンクリア  
テクス

其構造ハ、葡萄狀ニシテ、數多ノ多稜ナル葉、及ヒ  
小葉ヨリ成リ、結締組織ニ由テ、寛ク會着ス  
「脾管」  
ハ長大ニシテ、一ハ比スレハ細小ナリ、而テ甲者  
ハ腺体ヲ左ヨリ右ニ經過シ、末端ニ近キ處ニ於  
テ脾頭ヨリ來ル枝、即チ乙者ニ會合シ、脾ヲ辞シ  
テ、十二指腸ノ壁ヲ穿テ、胃ヨリ畧ホ四「インチ」下  
ニテ、総胆管ニ近ツキ、若クハ會合シ、テ腸内ニ開  
ロス  
動脈ハ、脾十二指腸動脈、脾動脈ヨリ來レリ、靜脈

脾、  
卷之九、  
脾

ハクマペンクルテス

ハパール

ハ脾静脈、上腸間膜静脈ニ交通ス水脈ハ、腰腺ト  
交通シ、神經ハ、交感系統ノ太陽叢ノ分支ナリ

脾液テ、ク、ジ、ウ、スハ、清澄無色、稍粘稠ニシテ、ア

ルカリ性ノ反應ヲ有ス其内ニ、一種ノ蛋白樣質

ヲ含メリ、**脾液素**ア、パ、ン、ク、リ、ト云フ食物ノ脂油質

ヲ分解シテ、油乳ト為スニ、最要ノ者ナリ

肝

肝ウ、ア、ル、ハハ、体中最大ノ器ニシテ、真ノ腺樣ナリ右

肋下ノ大部ヲ領シ、上腹部ヲ過キテ左肋下ノ小

部ニ及フ其形狀、半橢圓ニシテ、長徑ヲ以テ横居

シ、上面ハ凸ニシテ、横膈ニ密貼シ、下面ハ殆ト平

カ、若クハ稍凹シテ、胃十二指腸、結腸、右腎ニ觸接

ス前方ハ、劔狀及ヒ肋軟骨、後方ハ、横膈脚、大動脈

下大静脈ニ關係セリ而テ腹膜ノ翻轉物、即チ繫

靱帶セ、ソ、リ、ガ、メ、ン、ト、リ左右側靱帶セ、ラ、イ、ト、エ、ン

ラ、ル、ト、リ、ガ、メ、ン、ト、リ、其他、後縁ヲ附着セシムル結締組織ヲ

以テ横膈ニ提繫ス、

右部ハ、左部ニ比スルニ、甚タ大ク、且ツ厚クシテ、

其位置モ、亦タ固定セリ、而テ腹内ニハ、最モ低ク、

胸内ニハ、最モ高ク展達ス後右方ノ縁ハ、厚圓十

レ氏、前左方ノ縁ハ、薄銳ニシテ、最モ移動シ易キナリ  
 肝ハ其組織強實、面上滑澤ニシテ、帶赤褐色ナリ  
 屢、多少ノ黄色ヲ有ス、是レ質中ニ脂肪ノ存スルニ由ル  
 又夕時トシテ、表面ニ鉛藍色或ハ紫色ノ斑紋ヲ呈セリ  
 其重量、三四ポント、其徑度左右ハ、十乃至十二インチ  
 前後ハ、畧ホ六インチ上下ハ、其最廣部ニテ、畧ホ三  
 インチアリ、而テ通常婦人ニ於テハ、概子其五分ノ一ヲ減ス、

トブス、テキスル

肝ヲ左右ハ、二葉ニ區別ス、其手段ハ、横膈ノ中線ヨリ、上面ニ延布スル繫靱帶ト、同一ノ方向ニテ、下面ニ存スル縦披裂トニ由テス、而テ其葉ノ大小ハ、左右甚々不齊ナリ  
 右葉甲セ、ライト、ロル、ハ、其大サ左葉ニ四五倍ニシテ、方形ナリ、而テ右側靱帶ノ離隔セシ、翻轉物ノ間ニ於テ、結締組織ヲ以テ、後縁ヲ横膈ニ密着ス、上面ハ凸、下面ハ右腎、胃ノ幽門端、結腸ニ親接ス、下面ノ前部ニ、一窩ヲ具ヘ、胆嚢ヲ居ラシム、其左後方ニ、一個ノ小部アリ、之ヲ方葉、尾葉ト云フ、

左葉ハ、比スルニ薄クシテ、三角  
 形ナリ左側靱帶ニテ寬提シ、乃チ移動ス可シ下  
 面ハ胃ノ前部ニ親接シ、後方ハ胃ノ上口ト關係  
 ス

兩葉俱モ、向キノ區別ノ外、尚オ前後ノ縁ニ於テ、

截痕ヲ有シ、以テ分畫ス前截痕、後截痕ニ於テ、

銳ニシテ、下方ハ縦披裂ニ聯續シ、後截痕ニ於テ、

管トヲ居ラシム、右葉ニ於テ、後截痕ノ深部ニ、下

大靜脈ヲ居ケリ、而テ時トシテ、其周回ニ已ノ質

ヲ延展シテ、一ノ全管ヲ造為シ、以テ彼ノ靜脈ヲ

回擁スルヲアリ、後截痕ノ上ニ於テ、繫靱帶ノ二

層、相離隔シ、側靱帶ノ前部ト聯接シテ、三角形

ノ空隙ヲ存シ、茲ニ結締組織アリテ、肝ヲ横膈ニ

附着ス

縦披裂セ、ロシハ、下部ニ存スル深溝ニシ

テ、前後截痕ノ兩間ニ達シ、以テ左葉ト右葉ヲ分

畫シ、其前部ハ、間、肝質ノ橋ニテ横過シ、圓靱帶ヲ

含メ、胎兒ノ胎兒ノ

氏ノ臍靜脈實塞セシ者ナリ、其後部、纖維帶ヲ含

メ、

胎兒ノ

氏ノ臍靜脈實塞セシ者ナリ、其後部、纖維帶ヲ含

メ、

氏ノ臍靜脈實塞セシ者ナリ、其後部、纖維帶ヲ含

甲  
 乙  
 丙  
 丁  
 戊  
 己  
 庚  
 辛  
 壬  
 癸

甲  
ソリスダラニス  
ルツス、  
全  
シリスボルターロム

乙  
ロリスコネトラ  
トス、

丙  
ロリススピゲ  
トス、

有ス、亦々胎兒ノ氏ノ靜脈管ノ實塞セシ者ナリ  
 横披裂ルセ、タラニスハ、縦披裂ト直角ヲ為シ方  
 葉ト尾葉ノ間ニ經過スル、深溝ニシテ、右葉ノ下  
 部ニ終ル是レ血管、神經ノ由テ入り、水脈、排泄管  
 ノ由テ出ル處ナリ  
 方葉セ、コヲドルト、ロハ、肝質ニテ成ル、其部方  
 形ニシテ右ハ胆嚢ト、左ハ縦披裂トノ間ニ占居  
 シ、前方ハ肝ノ前縁ヨリ、後方ハ横披裂ニ達ス  
 尾葉セ、カウヂト、モ亦々肝質ニテ成ル、鈍キ三稜  
 形ノ小塊ニシテ、横披裂ノ後口ニ在テ、後截痕ニ

甲  
ロリスガウヂ  
トス

達ス而テ左ニ縦披裂、右ニ下大靜脈溝アリ、下大  
 靜脈ノ前ニ於テ、短峽、即チ尾突起カウヂト、ヲ  
 以テ、右葉ノ下面ニ聯合ス  
 肝ノ血液ヲ受ルヤ、其源ニアリ、是レ体ノ諸器中  
 ニ於テ特異ナル所以ナリ、其一ハ視ニ小ナル脈  
 管、即チ肝動脈セ、ヘパテクニシテ、爰ヨリ鮮紅ノ  
 血液ヲ受ク、一ハ大ナル脈管、即チ門脈セ、ポルタル  
 ニシテ、爰ヨリ暗赭ノ血液ヲ受ク、此ニ脈ハ、横披  
 裂ヨリ穿入シ、各分レテ兩支ト為リ、其支乃チ左  
 右ノ葉ニ往キ、後チ又各離散シテ、下方ヨリ上方

且ツ肝縁ニ向テ分支セリ而テ其動脈ハ靜脈ノ前ニ在ルナリ  
 胆管<sup>甲</sup>トセ、バイル<sup>ド</sup>ハ、肝質中ニ起リ右ニ論スル所ノ血管ノ行路ニ會轉シ、横披裂ヨリ辞シ去ル乃チ一ハ右葉ヨリ、一ハ左葉ヨリ出テ會合シテ肝管<sup>乙</sup>クドヘパトテノ幹ヲ造成ス、數多ノ水脈ト、肺胃神經及ヒ交感神經ヨリ來レル神經ハ、亦々右ニ論スル所ノ血管及ヒ肝管ニ伴行シテ、相共ニ結締組織ニテ全包ス  
 肝靜脈<sup>乙</sup>トセ、ヘンパステクハ、血液ヲ肝質ヨリ聚メテ總

循環ニ還流セシム乃チ肝ノ末梢部ニ始リ、前方ヨリ後方ニ辞シ去リ、後截痕ニ於テ、下大靜脈ニ交通スル、二個ノ宗幹ニ終レリ  
 肝靜脈ト、他ノ肝血管ト、相關與スル位置及ヒ景況ハ、甚タ紛雜ナリ、乃チ恰モ一箇ノ倒樹ト、數箇ノ立樹ト、互ニ其枝極ヲ以テ交叉混亂セシ者ノ如シ

肝造構

肝ハ、其後縁、繫韌帶及ヒ側韌帶ノ層隙、諸披裂ノ底面ノ他ハ、悉ク腹膜ヨリ來リシ清膜ニテ密包



八、既ニ肝静脈ノ条下ニ論セリ件ノ諸脈管ハ終ニ小葉間ニ支分シ、脈絡叢ヲ形成シ、以テ各葉ヲ結合ス。人ニ於テハ、件ノ脈管、主ニ小葉ヲ結合スレド、家猪ノ如キニ於テハ、鏡多ノ結締組織ヲ交ユルヲ以テ各小葉ノ外圍、愈、劃然ト看取スヘシ。小葉ノ間隙ヲ領スル門脈、肝動脈ノ末稍支ト、其中軸ニ存スル肝静脈ノ起端支トノ間ニ網状毛細管アリテ、相ヒ錯綜ス。故ニ血液ノ門脈、肝動脈ヨリ、肝ニ入ルマ、進行シテ、小葉間ニ達シ、然ル後、肝静脈ノ始端ニ届ルマデハ、毛細管網ヲ経テ、

甲  
ハテ多クハ多ク

紆曲廻流セリ、

毛細管網ノ眼、即チ間隙ハ、肝臓固有ノ分泌質即チ

肝臓セルク、セルスヲ以テ充填ス。其セルハ、

不整且ツ多稜ニシテ、直徑一ミルチノ一千、乃至

二千分ノ一ナリ、而テ柔軟ナル粒状物ト、核トヲ

含蓄ス。或ハ微細ノ油球ヲ含ム者モアリ、肝セル

ノ網眼ヲ領スルマ、其二顆ノ直徑ヲ以テ、略ホ充

填スルヲ通例トス、然レド屢一顆ニテ、横居スル

コアリ

前件ノ辨説ニテハ、小葉ノ造構ハ、毛細管網ノ間

隙ニ於テ、肝セル網ヲ夾襍セシ者タルヲ瞭然タリ、是レ解剖學者ノ實驗シテ、決定セシ所ナリ然レモ肝セル網ト、胆管ト、相關係スル方法ノ至精至密ニ至テハ、其說甚タ區々タリ、或ハ肝セル網ハ、實塞シ、胆管ハ、小葉ノ邊境ヨリ起ルト云ヒ、又々肝セル網ノセル間ノ道路ト、小葉間ニ在ル胆管ノ起端ト、相交通スルト云ヒ、又々至薄ノ基膜管ヲ以テ、別ニ網ヲ形成シ、毛細管網ト、肝セル網トヲ夾雜シテ、小葉間ノ胆管ニ联接スト云ヒ、又々肝セル網ハ、只々基膜ノ管ヲ裹包スルヲ、他ノ真

腺ニ同久而テ其管ヨリ、小葉間ニ於テ胆管ヲ起スト云ヘリ

胆管及ヒ胆囊

胆管クセドヘクパトテハニ枝ヲ以テ肝ノ横披裂ヨリ始

マリ、門脈ノ前、肝動脈ノ右ニ在テ、胃肝網ノ右縁内ヲ下行シ其丈ケ略ニ「インチアリ、而テ胆囊ヨリ來ル輸胆管クセドヘクパトテハ會合シ、乃チ總胆管カセトシ、ドクリアヲ造成シテ終ル、

胆囊クセドヘクパトテハハ、胆汁ヲ貯蓄スル者ニシテ、梨子狀ノ如ク、即チ底、体、及ヒ頸ヲ有シ、而テ其半ハ右

甲ドクトスヘバテクス

乙クシヤユスビリス

葉ノ下部ノ前方ニ在ル窩中ニ藏居シ底ハ第十  
 肋軟骨ノ近傍ニ於テ肝ノ前縁ヲ起ヘテ挺出シ  
 体ハ後方ニ向テ延長シ頸ハS字狀ニ廻轉シ横  
 披裂ニ於テ輸胆管ト為テ終レリ  
 胆嚢ハ結締織ニ由テ肝質ノ窩中ニ附着シ其底  
 遊離シテ他ノ遊離部ト共ニ腹膜ニテ包裹シ腹  
 膜ノ他ニ壁ニ於テ纖維組織ノ強層ト灰白色ノ  
 無紋筋纖維ノ薄層ヲ具シ裏包ノ粘膜ハ一様ニ  
 微細ナル網狀ノ皺襞ニテ被覆シ柱狀内皮ヲ具  
 一居恒ニ胆汁ニ染ミテ黄色ト為レリ

トクトスセステク  
 ス

トクトス、コミニユニス、  
 コレドクス、  
 ドクトスヘパトセス  
 ラクス、

胆嚢ハ血液ヲ肝動脈ノ一支即チ胆嚢動脈ヨリ  
 受容シ、靜脈ニ由テ門脈ニ還流セシム  
 輸胆管トクトスセステクハ、丈ケ略、一「インチ」アリ、左方ニ  
 下行シテ、肝管ト直角ニ聯合ス裏膜ハ、一列ノ斜  
 ナル皺襞ヲ具ヘ、其皺襞、即チ螺旋瓣ヲ形成シ、以  
 テ胆汁ノ流注ヲ緩徐ナラシム  
 總胆管トクトス、コミニユニス、ハ、肝管ト、輸胆管ト、相會合  
 シテ成ル者ナリ、丈ケ略、三「インチ」幅ハ太キ驚翅  
 幹ノ如シ胃肝網ノ右縁ニ沿テ十二指腸下行部  
 ノ後右方ニ達シ、乃チ胃ノ略、四「インチ」下方ニ於

肝  
ヒリス

テ腸内ニ開口ス下部ハ臍頭ニテ圍包セラレ後  
 千斜ニ十二指腸ノ壁ヲ穿通シ壁内ニ在ル幽微  
 ノ乳頭隆起上ニ開口シ爰ニテ狹小ト為レリ  
 以上ノ諸管及ヒ枝別ハ其造構皆十同一ナリ總  
 テ強キ纖維層ト僅少ノ無紋筋纖維ト裝裏ノ粘  
 膜ヨリ成ル而テ粘膜ハ許多ノ微細ナル葡萄狀  
 腺ヲ具有シ柱狀内皮ニテ周布ス小胆管ハ獨リ  
 數磚狀内皮ヲ有セリ  
 肝ノ分泌液ヲ胆汁イゼト云ヒ其汁人ノ者ハ稀  
 薄ニシテ粘滑帶黃暗褐色ニシテ味ニ苦ク其反

脾  
リン

應ハ新鮮ナル片ハ殆ト中性ナリ其化學的成分  
 ハ甚々複雑ス  
 胆汁ハ常ニ多量ニ分泌シ且ツ諸動物大抵皆十  
 之ヲ有スレド其効用ニ至テハ未タ十分詳明ニ  
 之ヲ逐一スルヲ能ハス

脾

脾イゼ脾リンハ左肋下部ニ深在シ其質準ニ柔軟其  
 狀半楕圓其色鉛紫ナリ長徑ヲ以テ其巨端ヲ上  
 方ニ向ケ直立シ腹膜ノ皺襞即チ所謂繫靱帶ニ  
 テ横膈ニ附着ス外面ハ凸クシテ左側ニ向キ第

甲ホルスリーニス

三四、人腰椎ニ對シテ、横膈ニ親接シ内面ハ其前  
 及ヒ後部稍々壓平シ、中部ハ凸クシテ右側ニ向  
 ヒ胃ノ盲囊ニ抵觸シ、胃脾網ゲガストロブレニ  
ク、オームエンタム  
 爰ニ附着ス、後縁ハ厚クシテ圓ク、隣接ノ腎ト横  
 膈トニ對ス、前縁ハ稍々薄ク、通例其下部ニ於テ、  
 一二ノ截痕ヲ呈ス  
 内面ノ中部ニ、幽微ノ一溝アリ、**脾門**ロゼヒト云  
 フ、血管神經ノ出入スル所ナリ  
 脾ハ健康体ニ於テモ、態積大ニ變易ス、殊ニ疾病  
 ニ由テハ、非常ノ變化ニ罹ルアリ、然レモ通

例丈ケ四五「イ」チ幅ハ三四「イ」チ厚サ一「イ」  
 チ乃至其餘半ニシテ重量略ホ六「ポ」ンスアリト  
 ス而テ二層ノ膜ヲ具ス其外者ハ、清膜層ニシテ、  
 内者ハ、彈力性ノ纖維膜層ナリ、  
 清膜層ハ、底下部ニ密着スル、菲薄透明、且ツ滑澤  
 ナル者ニシテ、腹膜ヨリ轉來ス、纖維層ハ、適宜ニ  
 強ク、且ツ擴張ス可キ者ニシテ、其造構、纖維組織  
 ノ錯綜中ニ、彈力組織ノ纖維ヲ交ユル小束ヨリ  
 シ、而テ脾門ニ於テ、同組織ノ包膜ニ联接ス、此包  
 膜ハ、血管ヲ包裹シ、其技別ニ隨テ脾ニ入レリ、

解剖訓蒙 卷之六

脾軟塊

脾ハ其質容易ニ綻裂スヘク其裂面ハ濃暗赤色ニシテ血液ノ凝固セシカ如ク容易ニ刮取スヘシ之ヲ脾軟塊ゼ、ス、ポ、ル、プ、レト云フ又々脾ノ一部ヲ取テ數回洗滌スレハ彼ノ軟塊悉ク脱落シテ唯海綿狀塊ノミヲ留ム此塊ハ血管ト所謂纖維彈力組織ノ小束ト無數相組會シテ成レリ件ノ小束ヲ纖維材タ、ラ、ベ、ト云フ即チ内層ノ内面ヨリ起リ恰モ海綿狀ノ如ク間錯シテ網形ヲ成ス而シテ血管ヲ保支シ且ツ其網眼中ニ所謂脾軟塊ヲ含蓄ス

脾軟塊ゼ、ス、ポ、ル、プ、レニテ照ラスニ左ノ諸原質ヨリ成ル其六許多ノ血球ナリ是レ變化

ヲ受サルモ亦々分解シテ種々ノ形態ヲ呈スル者多シ二微細ノ粒狀物ナリ是レ一分ハ無色ナ

レ氏多分ハ赤色ヨリ褐色ニ化成シテ濃淡種々ノ者アリ三許多ノ分離セシ核体ナリ四無色ノ有核セルナリ五僅少ノセルナリ是レ分解セシ

血球ヲ含有ス六赤色ノ針狀晶ナリ是レ血球ノ分解シテ生スル者ニシテ時々存セリ

以上ノ原質其互ノ關係且ツ血管ト關係スル方

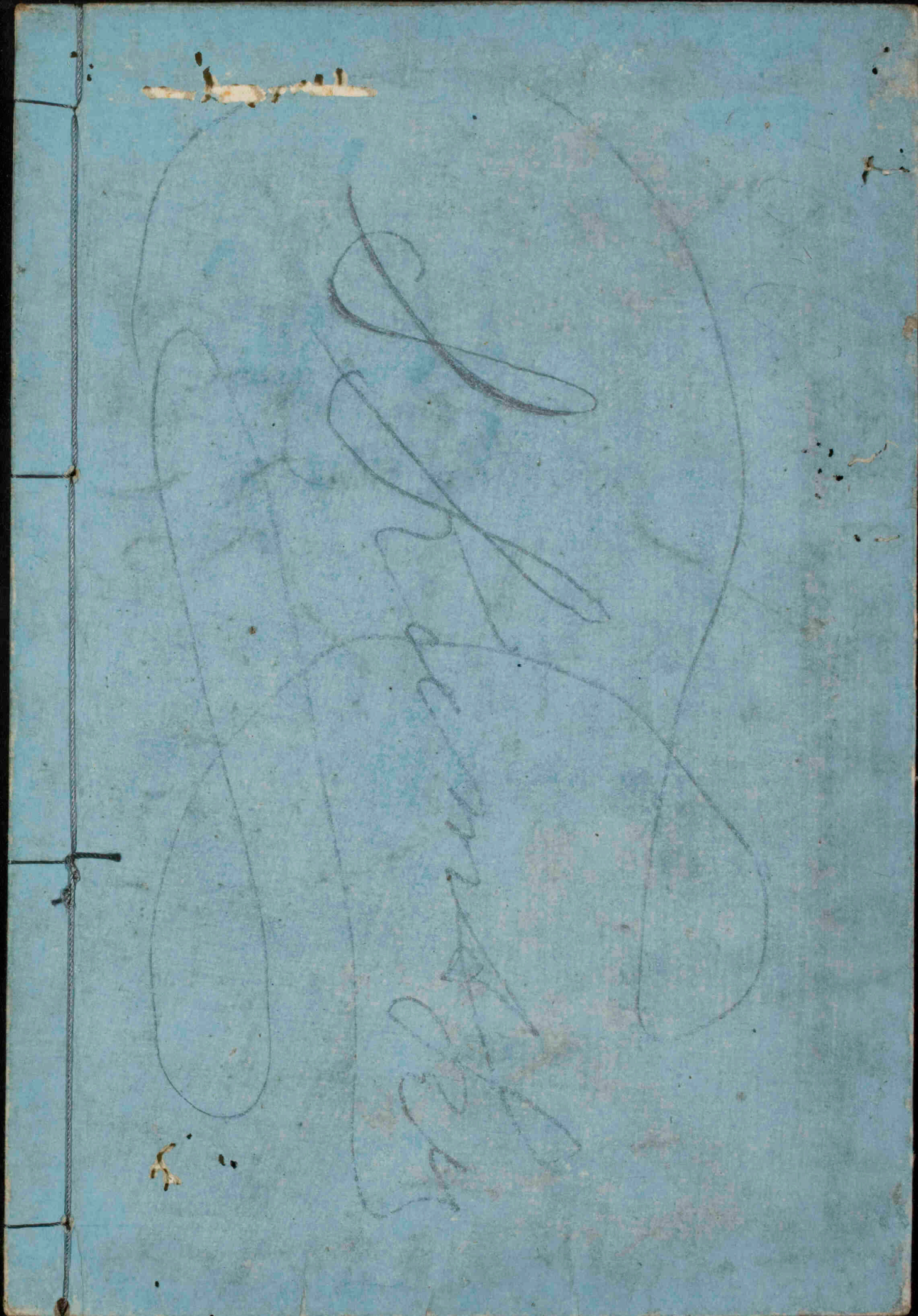
エラマレヒギ

法ハ未々十分ニ詳明ナラス  
 爰ニ又々許多ノ小圓ナル白物アリ、細動脈ノ外  
 側ニ附着ス、又々軟塊中ニ毛埋居セリ之ヲ脾球  
 ト云フ其多寡大小一定セス然レ  
 凡通例直徑略ホ一ヲイシノ六分一アリト  
 構造ハ腸ノ撒布腺ニ類似セリ  
 脾ハ其大サニ視テハ甚々血管ニ富メリ乃チ  
 動脈ハ先ツ脾門ノ側ニ於テ其支六個以上ニ支  
 別シ以テ脾ニ入り又々無數ニ支別シテ實質中  
 ニ彌蔓ス但シ其主タル者ハ吻合スルナク而

テ遂ニ饒多會合シテ筆狀ノ小束ト為リ以テ軟  
 塊中ノ毛細管ニ終レリ靜脈ハ動脈ニ伴行ス其  
 數ハ相ヒ一致スレ凡稍ヤ大ナリ水脈ハ他ノ腹  
 部諸器ニ較フレハ僅少ナリ神經ハ交感系ノ大  
 陽叢ヨリ來レリ

脾ノ官能ハ之ヲ驗查セシテ百手千段ナレ凡未  
 タ的知スルヲ能ハス由テ假リニ消化器休息ノ  
 間ト總テ体ノ表部ヨリ内部ニ向テ多ク輻湊ス  
 ル時トニ於テ其血液ヲ貯蓄スル者ト推定シ且  
 ツ血球其作用ヲ畢リシ後チ分解ヲ受テ以テ化





J. H. M. 1854